

にじいろはーと vol, 4

「みらい」「なないろ」開設一周年を迎えて

おいた子ども支援ネット 理事 伊勢 強志

(社) 藤本愛育会 大分子ども発達支援センター つばさ学園園長

事業開始して早いもので1年を迎えますが、この間、且野原のセンターハウスは驚くほど様変わりしています。思えば、開設前は、数年間空き家だった建物をお借りしたこともあり、くすんだ色の中に寂しさが同居するイメージもありましたが、今や、明るく賑やかで、温もりを感じさせる佇まいを見せています。りっぱな建物をお貸しいただくとともに、たくさんの皆様方の温かい善意により、様々な部分が整備され、格段に充実してきました。また、地域の皆様方との交流も進み、地域の一員として受け入れていただくとともに、子ども達が心地よく使えるようにと、所長以下6名のスタッフが、一心不乱に磨き上げてきた成果がここに現れていると思っています。

さらに、こうしたハード面の充実に加えて、「にじいろはーと Vol3」で近況報告がなされたとおり、事業内容も着実に進展し、身びいきの部分はありませんが、想定を上回るスピードと質の高さで成果が現れつつあると評価しています。これもひとえに、ご支援いただいている皆様、企業の皆様、関係機関の皆様のお陰であり、理事の一人として、心から感謝申し上げます。

一方で、運営上の課題のほか、当法人に寄せられる「子ども達のニーズ」は、未だ山のようにあると考えています。

放課後等ディサービス事業につきましては、「なないろ」も含めて、現在、大分市内に35カ所に及ぶ事業所が設置され、今後さらに増加が見込まれる等、正に鎬を削る状況になることが想定されるため、これまで以上に支援の専門性を高めるとともに、利用者の利便性や利用数の増に応えられる体制整備が急務となっています。こうした状況を踏まえ、まずは、28年度当初に「なないろ2号館」を新設し、利用者の特性に応じた、より細かな支援が行える体制が講じられた所ですが、今後は、新たな実施場所や人材の確保、育成等を念頭に置きつつ、利便性や利用数の増にも応えられる事業展開を図っていくことが必要と考えています。

次に、児童自立援助ホーム・子どもシェルターである「みら

い」につきましては、社会的養護の中で暮らす子ども達への具体的な支援の一端を担い、先ずは安心して暮らすことのできる「生活の居場所」を確保するとともに、子ども達のニーズや意欲に応じて、就労等による「社会的な居場所」作りを具体的に進めているところです。一方で、社会的養護の中で育った子どもの就職後1年内の離職率は、一般の子どもと比べ1.6倍と高くなっています。この理由としては、保護者の支援がなく、就職時の住む場所の確保や諸準備の費用等の支援も不十分のため、否応なく限られた企業等に就労していることや、初めて社会に出て不安で一杯の時のサポートが受け難いこと、自尊感情が十分でなく心が折れやすいこと等が挙げられます。こうした事を踏まえ、「みらい」では、子ども達に理解があり、親身になって考えて貰える事業主の皆様のご協力を得て、先ずはお試しのアルバイトから入り、子どもと仕事等との相性を見極めた上で、良ければ社員として雇用していただく形をとらせていただいています。そして、この1年間で二人の子どもが認められて正社員になりました。会社や職種は異なりますが、職場の皆さんに受け入れられ、仕事への遣り甲斐、意欲を持ち毎日元気に働いています。職場で必要とされ「社会的な居場所」が確保されることにより、子ども達の自己肯定感も向上し、次の飛躍へと繋がるものと確信しています。

当法人では「すべての子どもたちに明るい未来を！」を合い言葉に活動しています。今後は、「みらい」の子どもだけでなく、法人に寄せられる多くの子ども達のニーズをしっかりと聞き取る中で、「生活の居場所」や「社会的な居場所」の確保に向け、新たな事業展開を図るなど、より具体的な方策を講じる努力を積み重ねて行くことが必要だと考えています。

言うまでもなく「子ども達が子どもで居られる時間」は限られており…今の子ども達のニーズに応えられるよう、スピード感を持って取り組むことも重要です。

私は、当法人の開設に向けた検討時から（当時は県の職員として）関わらせていただいています。今後も法人理事として、微力ではありますが、使命感を持って、可能な限り尽力したいと考えています。今後とも、関係の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 28 年度スタート！

創業 2 年目。平成 28 年度がスタートしました！
無事に新年度を迎えることができましたのも、たくさん
の支援者の皆さま、地域の方々、関係の事業所や会
社、行政機関等々、みなさまのご支援・ご理解の「お
かげさま」。本当にありがとうございます。

さらに、みらい入居、利用の子どもたち、なないろ
利用の子どもたちやご家族の皆さま、今年度もよろし
くお願いいたします。

まずは…。近況報告！



【みらい】

去る 4 月 7 日（木）新しい仲間が増え、自立援助ホ
ーム「みらい」も 5 名になりました。就労からの自立
をめざす子どもが 4 名（うち 2 名は正社員になりまし
た！）高校に通学する 1 名も無事に進級できました！

昨年度を通じて思う事なのですが、子どもたちの成
長にはやはり、「社会の力」が欠かせないと。

偉大です。「社会の力」。

そこで、今回は入居する子どもの勤務する会社社長
にインタビュー。以下ご紹介いたします。



<有限会社 河野左官工業
代表取締役 河野靖男 様>

はじめまして。河野と申しま
す。この度は、おおいた子ども支
援ネットの会報誌にこのような機
会をいただき、誠にありがとうござ
います。

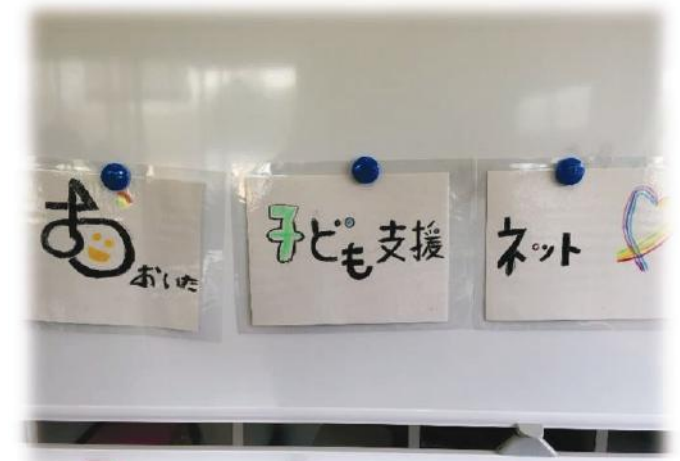
私はセンターハウス所長の矢野さんと大型二輪の教
習所で出会いました。私たちの業界は「若い職人」の
獲得と定着が不可欠です。しかし、現実にはなかなか
生活や仕事の安定がなかなか難しく、いったん入社し
てもなかなか長続きしないことが現実です。恥ずかし
ながら、矢野所長との出会いの中で、自立援助ホーム
というものを初めて知りました。そしてご縁をいただ
き、ひとりの青年が入社してきました。「働いて一食
べて一寝る」というあたりまえの生活リズムが確保さ
れることや社員を励ましてくれる環境があることな
ど、この自立援助ホーム「みらい」の中で、たくまし

く成長していく様子を実感しています。私の周辺には
「若い力」をもとめる会社や職人が多く存在していま
す。これからも子どもたちのために、何らかのお役に
立てればと考えています。会社と子どもたちを支える
福祉関係の皆さまとが手を取り合いながら、ともに努
力—成長していきましょう！

ありがとうございました。今後ともよろしくお願
い申し上げます。

—河野社長。ありがとうございました！社長のお人柄
がみらいの子どもを大きく成長させてくれています。実
はこの青年、先日交通事故に遭いました。事故現場に誰
よりも早く来ていただき、保険等の手続きに奔走してい
ただき、いつも温かく、厳しく子どもを見守ってくれて
います。わたしたちおおいた子ども支援ネットは「社会
と手をつなぐ」ことを、これからも大切にしていま
す。（みらいより）

【なないろ】



（児童作品 K くん）

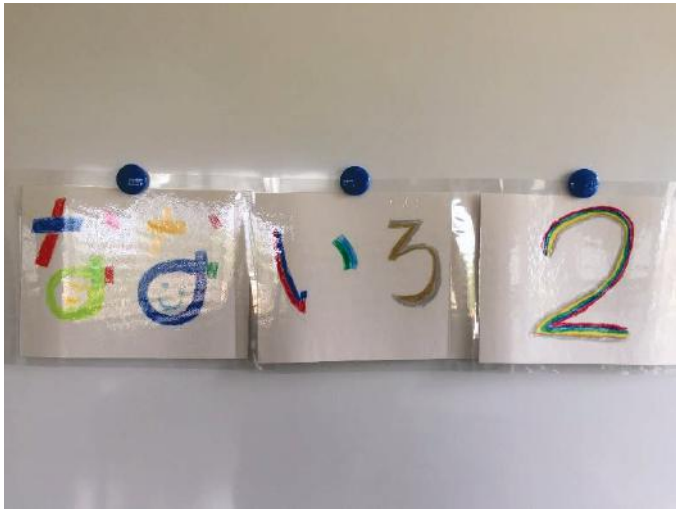
4 月 1 日。「なないろ 2 号館」がオープンしまし
た。放課後等デイサービスを開始して 1 年。昨年度ま
では 1 つの教室に小学校 1 年生～5 年生までが混在し
ていました。発達の特性を抱える子どもたち。たくさ
んの出来事がありました。

「もっとコミュニケーションスキルを高めるには」
「もっと学習の喜びを与えてあげたい」 等々
毎日試行錯誤…。そんな中、思い切って「個別の取り
組みを前面に出す教室」「集団としての取り組みを大
切にする教室」という 2 つの枠組みを作ってみること

に。子どもたちそれぞれが持っている発達特性（個性）をもっと大切に育てていけますように…。そんな願いをこめて2号館がオープンしました。

たくさんの大学生が協力してくれますー保護者がどしどし関わってくれますーとってもおせっかいなデイサービスをめざしています。

今年の夏には「スーパーキャンプ！」も予定。これからもなないろは、子どもたちにとって「大切な居場所」になれるよう努力していきます。



要保護児童自立支援強化事業

～「きつきプロジェクト」～

はじまります

○大分県の児童養護施設退所児童の状況
(平成18年度～21年度実績)

*進学ー約20%

*就職ー約75% *その他ー約5%

○就職した者の1年以内の離職率

*約34.4% (通常の高校生の1.6倍)

上記のデータ。みなさんにはどのように映るでしょうか？

児童養護施設にはさまざまな事情で「家族内で生活できない子ども」が入園しています。がんばって高校を卒業して、就職して…。なぜ、このように離職率の高いデータが示されるのか。そこには多くの事情や状況があり、短絡的に考えるべきものではないかもしれません。しかし、「そこには何かがある」ことも事実。

「18歳の自立」って、みなさんはどう思われますか。

選挙権も与えられました。が、高校卒業して、やっとなんかから少しずつ「自立」をめざして、社会適応していく準備が本格的に始まるのが18歳。ましてや、多くの場合、何か困ったときには頼るべき家族がいます。高校卒業しても、あれこれ家族の力を借りながら大人になっていく…。現実にはそうではないかと。

しかし、児童養護施設を退所した子どもたち。そこに頼れる家族がいない時…。上記の数字にはそんな背景も見え隠れするのではないのでしょうか？

ー大分県杵築市。古くから由緒ある地域。城下町の美しい街です。七島い(畳の材料)やハウスみかんなどでも有名です。しかし、超高齢化社会に突入し、地域産業が(農業後継者問題等)次第に衰退し、都市部から若者を呼び込むための政策も積極的に行う状況になっています。

「福祉(子どもたち)と地域課題をつなげる」

それが「要保護児童自立支援強化事業～きつきプロジェクト～」です。具体的には施設入所中に、地域の資源を活用した「就労体験活動」を市と児童養護施設と地域とが連携して行う、その活動の中で、子どもたちはたくさんの人とふれあいながら、将来に向けた選択肢を増やしていける…そういった事業に成長させることができるよう努力していきます。

本事業の構築にあたっては、「子どもを想う福祉の心豊かな杵築市長」様はじめ、た——くさんの方々

のご尽力がありました。福祉現場だけではなく、「子どもの幸せを願う人たちや組織」はたくさんあることをあらためて感じました。

行政機関や地域社会、福祉現場の方々、そして子どもたちといっしょに「カタチ」を創っていきたいと思います。今後の会報誌でまた経過報告いたします。



(ハウスみかん)



(春の杵築城)



(七島い栽培)

～雑記～

- なないろ 2号館開所式に「神事」を行いました。その時に来てくれた神主さん。実はみらい指導員のI先生！きちんとした神主の資格をお持ちで。その立ち振る舞いに一同びっくり。「さすが。本物や…」。なんとも豊かな人材の宝庫を感じました。ちなみに「あ～」とうなる場面で、必死に笑いをこらえてがんばった子どもたちの姿も立派でした！
- 2月末にみらいに入居、3月2日から仕事を始めたYくん（総合建設業見習い）。「初任給」をいただきました。しかも、かなり立派な金額&ドヤ顔。いろいろ言うよりも、「頑張ったことが形になる」ってわかりやすくてすごく大切。子どもたちの自立や成長に向けた「社会の力の大きさ」を実感です。
- みらいに新しい仲間が増えました。Sくん（15）。中学校を出たばかり。しかし、得意技はルービックキューブとけん玉と自転車。どうやら「食の職人になる」という野望を抱いている様子。さて、どうなることやら。ホームよりちょっと離れた場所でアルバイトを開始しました。

<事務局より>

- 新年度がスタートしました。昨年度はたくさんのご支援やご協力をいただき本当にありがとうございました。今年度も正会員・賛助会員の更新や新規申し込みのほどよろしくお願ひ申し上げます。また、ご寄付（額は問いません。品物でもたいへんありがたいです）についてもご協力くださいますよう、重ねてお願ひ申し上げます。（詳細は当法人HPに掲載しています。Yahoo等の検索に「おおいた子ども支援ネット」と記入し、検索よろしくお願ひします）



* ご質問・ご意見等あれば電話もしくはメールにてお尋ねください。

おおいた子ども支援ネット事務局 TEL : (097) 507-5417 mail : oita-kodomosien777@oct-net.ne.jp